

① Training and Technical Support(普及ステップ7)/ Module 7-1: Farm Record Keeping の研修教材の作成

対象農家の「営農改善計画」をもとに県農業局普及員が策定した「普及計画」に沿って、技術研修を実施している。まず、Module 7-1として営農改善のために重要な営農記録(Farm Record Keeping)の研修教材を作成した。

Farm Record Keeping の研修教材の内容

本ステップの目的:

- 1) Financial Record (農業収支記録)及び 2) Farm Practice Record(農作業記録)により、儲かる作物や営農体系の選択・継続ができるようにすること
- 費用がかかりすぎている費目の特定等、営農における課題が的確に把握できるようにすること

本ステップのコンセプト:

- 農家に「なぜ営農記録が必要なのか」明確に示し、必要性を認識してもらう。
- 営農記録は栽培技術と異なり、農家のレベルによって、記録が続けられる農家とそうでない農家がはっきり分かれる技術分野と考えられるため、簡易版と詳細版の2段階の記録方法を開発し、農家が選択できるようにした。
- 本プロジェクトのベースラインデータ及びエンドラインデータとしても活用できる営農記録の方法とした。



その他配慮したポイント:

- パレスチナで自発的に営農記録をつけている農家にヒアリングを行い、その目的、記録方法、その結果を何に活用しているか等を調査し、教材開発の参考とした。その結果、パレスチナの農家の営農記録の目的は、主に以下の2点であった。
 - 1) 農業収支記録: その年の複数の作物の収益性を金額で比較することで、収益性の高いものを次の年に継続・拡大し、収益性の低いものの面積を減らしたり、生産をやめるため
 - 2) 農作業記録: 収益が多かった作期の農作業記録に基づいて次作期も同じ農作業を繰り返すことができるようにするため(特に種苗の発注や農業機械・労働者の確保を前もって確実にできるようにするため)
- 持続性の観点から、簡易版は市販のノートだけで記録ができる方法とした(Field Notebook は市販の手帳と同じ)。

② Training and Technical Support(普及ステップ7) / Module 7-2: Group Purchasing の研修教材の作成

農業収益を高めるには、農業収入を増やすだけでなく、農業支出を減らすことも必要である。そこで、Module 7-2として、Group Purchasing(農業資材の集団購入)に係る研修教材を作成した。

Group Purchasing の研修教材の内容

本ステップの目的:

- 農家グループによる規模のメリットを活かしたグループ購入により、農業支出を減らすこと

本ステップのコンセプト:

- パレスチナにおけるグループ購入の実例を金額で示してそのメリットとデメリットを認識してもらう。
- グループ購入のコンセプトだけでなく、手順、スケジュール、様式、契約書フォーム等を開発し、農家グループがすぐに導入できる実用的な教材とする。

その他配慮したポイント:

- 前フェーズの対象農家グループのうち、グループ購入により農業資材の費用を削減できた農家グループが存在することから、ヒアリングを行い、そのメリットとデメリットの実例を把握し、実例として教材に反映させた。

③ 政府職員を対象とする Module 7-1:Farm Record Keeping と Module 7-2:Group Purchasing のためのプレトレーニングガイダンスの開催

普及・地域開発総局及び県農業局を対象に、研修で実際にファシリテーターとなる政府職員を対象に、実施手順に係る説明・協議を行った。そして、政府職員からの意見をもとに、研修内容の修正も行った。具体的には、対象農家の知識・技術レベルを知っている普及員の意見をもとに、**農家のレベルに合わせて記載内容を検討し、農家の理解度を高めるための修正**を行った。

- ・ 普及・地域開発総局(2017/7/9)
- ・ ナブルス農業局(2017/7/10)
- ・ トゥバス農業局(2017/7/12)
- ・ ジェリコ農業局(2017/7/13)



④ 農家グループを対象とする Module 7-1:Farm Record Keeping と Module 7-2:Group Purchasing の研修の実施

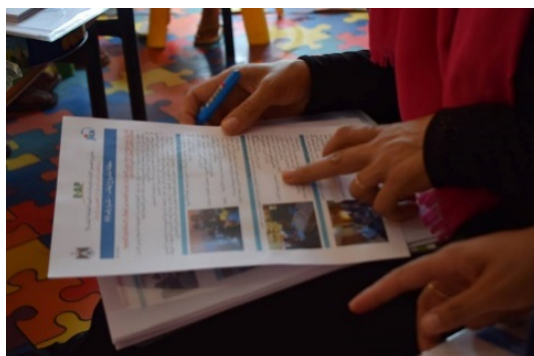
県農業局普及員のファシリテーションのもと、農家グループを対象に、以下の日程でワークショップを実施した。

- ・ Al Badhan Mother's School Group(ナブルス)(2017/7/17)
- ・ Frosh Beit Dajan Extension Sub-Group(ナブルス)(2017/7/17)
- ・ Bardala Extension Women Group(トゥバス)(2017/7/18)
- ・ Aqqaba Extension Women Sub-group(トゥバス)(2017/7/18)
- ・ Al-Musafah Extension Sub-Group(ジェリコ)(2017/7/20)
- ・ Jeftlik Farmers Extension Group(ジェリコ)(2017/7/20)



成果とインパクト:

- ・ 普及員は事前のプレトレーニングガイダンスのとおり、農家グループに対して内容を明確に説明をすることができた。
- ・ 営農記録の簡易版と詳細版を説明したところ、簡易版を導入したい農家と詳細版を導入したい農家で分かれた。そのことから、**農家が自分のレベルに応じて、導入したい方法を自身の判断で選択することができた**と考えられる。
- ・ 営農記録と集団購入でそれぞれ実例を示したところ、**自分たちと同じレベルの農家による実例**だったということで、農家の技術導入意欲が高まったのではないかと予想される。
- ・ 小作農が営農記録をつけることで、地主にだまされないようになるというメリットも確認できた。
- ・ 子供連れで参加する農民がいることから、参加農民が研修に集中できるように、子供向けの「めいろコーナー」を設けた。これまでに設置した「ぬりえコーナー」と同じく、子供が集中して取り組むことができ、参加農民も研修に集中した参加できたと考えられる。
- ・ 研修の冒頭で Newsletter を配布し、**他グループがどんな活動をしているか、情報を共有**できるようにした。他グループの研修成果やコメント、気づきを共有することで、お互いに刺激を受け合いながら、研修に参加してもらえるのではないかと考えられる。また、**前の研修に参加できなかった農民でもキャッチアップができるようにすることも目的**である。加えてプロジェクトでは、**家庭内での情報共有や研修効果の波及**の観点から、参加者には Newsletter を複数枚配布し、家族や親戚にも配布するように伝えている。



研修の冒頭で他グループの活動や気づきが書いてある Newsletter を読む農民



「めいろ」に集中して取り組む子供たち

今後の課題:

- ・ ヨルダン渓谷地区は気温が高い時期だったこともあり、日中に開催された研修に参加しない農家が多かった。そのため、現地の気候や気温を踏まえた研修スケジュール策定の必要性を認識した。
- ・ そのため、営農記録を普及させるためには、次回以降の研修で、本研修に参加しなかった農民に対して補完的に教材を配ったり、説明をしたりする必要が生じた。

⑤ ヨルダンで開催された地域連携プログラムの第2回 JSC への参加(2017/7/19)

JICA パレスチナ事務所が実施している地域連携プログラムとの効果的な連携を図るため、ヨルダンで開催された JSC に参加した。

本プロジェクトで把握した対象農家グループのニーズや課題を地域連携プログラム側に伝える等、継続して且つ定期的に密な情報共有が必要であると考えている。



⑥ 第3回 JCC の開催(2017/7/27)

JCC の主な内容は以下のとおりで、説明・提案された事項は承認された。

議事次第

1. EVAP-2 活動に係るビデオ発表
2. 開会の挨拶 (Mr. Amjad Salah, Chairman of JCC, Assistant Deputy Minister)
3. 開会の挨拶 (JICA パレスチナ事務所 三井所長)
4. プロジェクト進捗(2017年1~7月)の報告
5. 重要事項に係る提案
 - 1) EVAP 普及パッケージの改定
 - 2) PDM 指標(目標値)
6. プロジェクト計画・スケジュールの報告
 - 1) 第1サイクル(Nablus、Tubas、Jericho)向け技術研修
 - 2) 第2サイクル(Jenin、Tulkarem、Qalqiliya)向け EVAP 普及パッケージの実施
 - 3) JICA 地域連携プログラムとの連携
7. 質疑応答
8. 閉会 (Mr. Amjad Salah, Chairman of JCC, Assistant Deputy Minister)

